

[教育方法一般]

アウトカム評価を生かしたキャリア発達にかかわる諸能力の育成

— キャリア教育の評価指標とキャリア・カウンセリングの活用を通して —

山田 純一*

1 主題設定の理由

全国的な状況として、15歳～24歳の失業率が約13.4%、非正規雇用率が約32.3%、新規学卒者の3年以内の離職率は高校卒で約39.2%、大学卒で約31.0%、若者無業者は34歳以下で約60万人であり¹⁾、日本の喫緊の課題である。これからの日本を背負う若者を育てるためには、小学校段階からのキャリア教育の充実が求められる。新学習指導要領では、「…特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。」と示している。また、小学校・中学校・高等学校キャリア教育推進の手引では、プロセスの重要性を指摘し、PDCAサイクルを提示している。これらのことから、PDCAサイクルを基盤とした全教育活動によるキャリア教育の充実が重要となる。

しかし、PDCAサイクルを基盤とした全教育活動によるキャリア教育を実践する時、Check(評価)が難しい。キャリア教育の課題として、目指す具体的な姿が明確ではないために、Plant(計画)があいまいになり、教師と児童が目標をもちにくく、Check(評価)ができないことがあげられ、キャリア発達を促す妨げになっている。この点については、田原²⁾も「小学生におけるキャリア発達を測る尺度の開発も強く望まれる。」と述べている。川崎³⁾も、キャリア教育の評価が大きな課題となっていると述べ、今後は質的データと量的データを併用する効果測定に適した尺度が必要と述べている。ところで、この2つの取組の課題として、アウトカム評価により実践をAction(改善)しているが、児童自身のキャリア発達にかかわる諸能力へのAction(改善)にはつなげていない。キャリア発達に関わる諸能力の育成のためには、目指す具体的な姿を明確にしてキャリア教育の効果測定を行い、適切な評価をしながら児童自身のキャリア発達にフィードバックをし、生かしていくことが求められる。

児童自身にフィードバックする方法の一つに、キャリア・カウンセリングがある。キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書によると「学校におけるキャリア・カウンセリングは、…日々の生活で遭遇する課題や問題を積極的・建設的に解決していくことを通して、問題対処の力や態度を発達させ、自立的に生きていけるように支援することを旨とするものである。」と示されている。しかし、キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査によると、現状は「卒業直後の進路決定のための相談(面談)」と限定的に受け止められ、大切さが認識されていない実態がある。さらに、中学校のキャリア・カウンセリング実施率は55.9%であるが、小学校におけるキャリア・カウンセリングの実施率は5.7%である。一方、キャリア・カウンセリングのポイントとして、授業中に教師がキャリア発達を意識して意図的に働きかけることも含み、特に面談の時間を設けなくても、日常的な対話の中で行うことも可能である⁴⁾と示されている。また、福永⁵⁾も定期的教育相談以外の教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動の場面で、キャリア・カウンセリングを継続的に行う必要性を述べている。キャリア・カウンセリングの在り方を改め、小学校段階から実施することを通して、キャリア発達にかかわる諸能力を育成し、自立的に生きていけるように支援していくことが求められる。

そこで、キャリア教育の評価指標を明確にしたアウトカム評価を、面談や授業中のキャリア・カウンセリングで児童にフィードバックすることを通して、キャリア発達にかかわる諸能力を育成したいと考えた。

2 研究の目的

PDCAサイクルを基盤とした全教育活動によるキャリア教育活動で、キャリア発達にかかわる諸能力を育成することについて、キャリア教育の評価指標を明確にしたアウトカム評価を、キャリア・カウンセリングで児童にフィードバックすることが有効であることを以下の2点で明らかにする。

- 1点目…キャリア発達の能力が不十分である児童について、キャリア・カウンセリングを通じた行動の変容(質的分析)
- 2点目…全校について、キャリア・カウンセリング実践を通じたキャリア教育の評価指標による数値の変容(量的分析)

* 新潟市立西内野小学校

3 研究の内容と方法

(1) 研究の内容

① Plan(計画)…評価指標づくり

内閣府によると、社会的自立・職業的自立については定義がなく、それぞれの支援機関・団体や学校の実態によって目指す自立の姿が違う。目指す社会的・職業的自立の姿を明確にすることは、具体的な支援策につながる。

中央教育審議会答申では、「基礎的・汎用的能力」を打ち出した。その具体的内容は、「自己理解・自己管理能力」「人間関係形成・社会形成能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つに整理されている。

答申を受けて、新潟県立教育センターでは、

新潟っ子プランの能力概念一覧表⁶⁾を示した。筆者は、新潟市若者支援センター勤務時に、その能力概念と若者の実態からキャリア教育評価指標を図1のように作成した。そして、12の重点について4段階評価を行い、その合計を自立度とした。本実践では、新潟市若者支援センターの評価方法を活用し、重点の能力概念を具体的な児童の姿で示して目標を共有し、児童の自己評価に教師がサポート評価をしながら最終評価を行う。重点指導内容は、低学年では、「自己理解・自己管理能力」「人間関係・社会形成能力」、中学年では、「人間関係・社会形成能力」「課題対応能力」、高学年では、「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」とする。

② Do(実行)…授業のキャリア・カウンセリング

図2のように、教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動にキャリア発達を促す基礎的・汎用的能力のねらいを計画(p)して実行(d)する。実行(d)した後は、確実に評価(c)をして、活動の改善(a)を行う。年間を通したPDCAサイクルの実行(D)中に活動ごとのsmallpdcaサイクルを行うことを通して、充実させる。評価(c)改善(a)に関しては、対話やノートによる授業のキャリア・カウンセリングを取り入れていく。

③ Check(評価) Act(改善)…個別のキャリア・カウンセリング

図2のように、キャリア教育の評価指標を生かした評価(c)と改善(a)を、4月、7月、12月、3月に行うことを通して、充実させていく。

資料1のように、アンケートについて「1点：あてはまらない～4点：あてはまる」と数値で表し、個別にキャリア発達度表を作成する。評定は合計点(A:48点～36点・B:35点～24点・C:23点～12点)で示して自立度とする。そのシートを基に、個別のキャリア・カウンセリングを7月、12月に行い、学級担任や筆者と児童で評価を再確認し、成果と課題を明確にする。

4つの視点	重点	重点の能力概念
社会的自立とは、自信をもち、社会性を身に付けること		
＜自信をもつ＞ 自己理解・自己管理能力 (みつめる力)	1 肯定	自分の個性を自覚し、よさを伸ばすことができる力
	2 選択	興味・関心を生かし、自分で活動を選択できる力
	3 管理	自分の意思で決めたことについて責任をもつ力
＜社会性を身に付ける＞ 人間関係形成・社会 形成能力 (かかわる力)	4 挨拶	場に応じた「あいさつ」や「言葉づかい」ができる力
	5 社交	考えを伝え、話を聞き、よりよい人間関係を築く力
	6 協働	他者と協力して学習や活動ができる力
職業的自立とは、夢や目標に向かって動き出すこと		
＜動き出す＞ 課題対応能力 (やりぬく力)	7 実行	やらなければならない仕事や学習に確実に取り組む力
	8 対応	課題や問題に対してよりよい方法等を見つける力
	9 遂行	困難な状況でも解決に向けて努力できる力
＜夢や目標をもつ＞ キャリアプランニング能力 (夢をおこす力)	10 役割	自分が果たすべく役割を理解し、キャリアを形成する力
	11 設計	社会人・職業人としてのプランを描く力
	12 適性	職業と自分の適性について調整することができる力

図1 キャリア教育評価指標

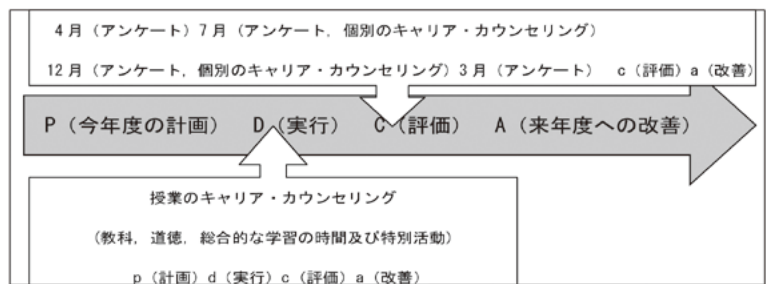


図2 1年を通したPDCAサイクル

自分に関するアンケート(5・6年生)		新潟市立M小学校 キャリア発達度表(自立度)	
質問内容	あてはまる割合 ○を○する 1 2 3 4	評定	自立度
① 自分にはよいところがある。	1 2 3 4		
② 自分のやりたい活動や自分に誇っている活動を活かすことができる。	1 2 3 4		
③ 自分が決めたことについて、責任をもつことができる。	1 2 3 4		
④ 丁寧な言葉づかいで、気持ちのよい返事やあいさつをすることができる。	1 2 3 4		
⑤ 相手の話を聞き、自分の気持ちや考えをわかりやすく伝えることができる。	1 2 3 4		
⑥ 学校生活で、友達と力を合わせて学習したり、活動したりしている。	1 2 3 4		
⑦ やらなければならない仕事や係の活動に意欲を持って積極的に取り組むことができる。	1 2 3 4		
⑧ 学習や生活において、自分で考え課題を解決したり、自分で判断して行動したりすることができる。	1 2 3 4		
⑨ 苦手なことや難しいことでも最後まで解決に向けて努力することができる。	1 2 3 4		
⑩ 学校で学んだことと自分の生活の中で役立っている。	1 2 3 4		
⑪ 将来の夢ややりたい仕事がある。	1 2 3 4		
⑫ 職業への興味・関心があり、自分にあった職業を考えている。	1 2 3 4		

資料1 アンケートとキャリア発達度表

(2) 研究の方法

① 実践の研究対象

実践1 新潟市立M小学校全校 86名

抽出児童A児（6年生男子）：肯定、協働、遂行の力が特に低い。自信がなく、グループ活動が苦手である。

実践2 新潟市立N小学校全校657名

② 実践時期

実践1 2015年4月～2016年3月

実践2 2016年4月～2017年3月

③ 手続き

職員会議で以下の内容について共通理解をする。

ア 授業のキャリア・カウンセリング

授業の中で、キャリア発達にかかわる諸能力の重点に関する言葉を授業中に意図的に褒めたり働きかけたりする。また、授業後には、キャリア発達にかかわる諸能力の重点に関する賞賛やアドバイスを毎日、1教科以上、ノートに書く。内容は、【課題に対する手立て→意図的な対話による働きかけ→認めて褒める→今後のアドバイス】とする。

イ 個別のキャリア・カウンセリング

7月、12月に各1時間、いじめ等に関する教育相談が設定されており、その時間の中でキャリア・カウンセリングを行う。児童1人あたり約5分の時間をかけ、終わらない場合は朝学習の時間に一週間以内で行うことにする。場所は、特別教室を使用する。授業や個別のキャリア・カウンセリングについては担任が行う。筆者は、出張授業の4・5・6学年の理科で授業のキャリア・カウンセリングを行い、さらに、各学年3名の抽出児童について個別のキャリア・カウンセリングを行う。内容は、【良い点を賞賛→課題を明らかにして理由を受容→課題に対する方向付け→励まし】とする。

④ 分析内容与方法

図3の内容と方法で分析する。質的分析として、ビデオカメラによる行動分析やICレコーダーによる会話分析（共に児童に承諾済み）、聞き取り調査等の面接法で分析する。量的分析として、アンケートによる質問紙結果を数値化する。分析者は、筆者と担任である。

分析内容1：キャリア発達の能力が不十分である児童について、キャリア・カウンセリングを通した行動の変容(質的分析)
方法：抽出児童A児について、(例1)授業のキャリア・カウンセリング場面、(例2)個別のキャリア・カウンセリング場面での行動の変容をビデオカメラ、ICレコーダーの記録から明らかにする。また、それに伴うキャリア教育の評価指標による数値の変容を明らかにする。

分析内容2：全校(小規模校・大規模校)について、キャリア・カウンセリング実践を通したキャリア教育の評価指標による数値の変容(量的分析)
方法：M小学校とN小学校における実践を通したキャリア教育の評価指標による数値変容を、4月、7月、12月、3月の児童アンケートを基に明らかにする。

図3 分析内容与方法

4 実践と結果

(1) 実践1 分析内容1：例1 授業のキャリア・カウンセリング

① 活動の流れ

授業においては、キャリア発達にかかわる諸能力に関するねらいを設定した。そして、図4のようなキャリア発達にかかわる言葉を授業中に意図的に褒めたり働きかけたりした。授業後には、キャリア発達にかかわる賞賛やアドバイスをノートに書いた。

② 抽出児童A児の変容

4月当初のA児の学習態度は、グループ活動や自分が苦手な内容に関しては逃避している状態であり、自分に関しては「どうせ、俺なんて…」が口癖で、自己肯定感がとても低かった。そこで、指導することが多いA児であるが、あえてキャリア発達にかかわる行動について


良い場面を認めて褒め、自己肯定感を高めていくことにした。例えば、友だちと協働することが苦手なため、仲良しの友だちと活動するようにし、その活動の様子を「友だちと協力して活動して素晴らしいです。」と授業中の言葉とノートへの言葉で認めて褒めることを繰り返した。遂行に関しても、ヒントを与え、スモールステップで「〇〇までできて素晴らしいね。あと、□□すれば完璧。」と認めて褒め、今後のアドバイスをした。2月のA児の学習態度は授業に参加し、板書内容をノートに書き、友だちと協力して最後まであきらめずに取り組む姿が見られるようになった。

肯定：〇〇さんの考えは、素晴らしいね。
選択：自分と同じ考えに、ネームプレートを貼ろう。
管理：自分で決めたことは、最後まで責任をもってやろう。
挨拶：返事は、しっかりしよう。
社交：友だちの考えをしっかりと聞こう。自分の考えを伝えよう。
協働：友だちと協力して、調べよう。
実行：ノートは、しっかり書こう。
対応：他にいい方法を考えてみよう。
遂行：難しいけれど、最後までがんばろう。

図4 主なキャリア発達にかかわる働きかけ

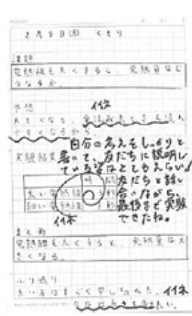
③ 授業の実際

表1 6年理科 もの燃え方と空気 (2015年 4月)

学習活動	キャリア発達にかかわる働きかけ	A児の行動
<p>1 導入の場面 ふたをした集気びんの中ろうそくは消えました。ふたをした集気びんの中ろうそくは消えますか?</p> <p>2 課題の場面 ふたをした集気びんの中ろうそくが燃え続けるのはなぜか?</p> <p>3 予想の場面 新しい空気が入ってくるから燃え続ける。</p> <p>4 実験の場面 綿糸のたかりを観察する。</p> <p>5 まどめの場面 空気が絶えず入れば燃え続けるから、集気びんの中ろうそくは燃え続ける。</p> <p>6 降り返りの場面 わかったことやふしぎなことを書く。</p> <p>7 ノート指導 教師が一人一人にノート指導を行う。</p>	<p>1 導入の場面 選択: 「消える」か「消えない」か、自分の考えにネームプレートを書きましょう。</p> <p>2 課題の場面 実行: ノートにしっかりと課題を書きましょう。</p> <p>3 予想の場面 社交: 自分の予想を友だちに伝えましょう。自分と違う友だちの予想があったらノートに書きましょう。わからない人は、友だちの考えを参考にしましょう。</p> <p>4 実験の場面 肯定: B児さんの考えは大好きですね。 挨拶: C児さんの返事は大きくていいね</p> <p>5 まどめの場面 対応: どのようにすれば活動められるかな。 管理: 班で役割決めて、最後まで責任をもってやりましょう。</p> <p>6 降り返りの場面 挨拶: A児さん、友だちと協力してえらいね。 実行: A児さん、このプリントにたかりの様子をやるしてかめてごらん。</p> <p>7 ノート指導 友だちとよくわかりぶんたんをして実験する姿がよかったです。はじめとまどりのたかりの様子もやるして観察することができたね。</p>	<p>1 導入の場面 「消えない」にネームプレートを書く。</p> <p>2 課題の場面 ノートに課題を書かぬい。</p> <p>3 予想の場面 予想しぬい。友だちとも交流しぬい。</p> <p>4 実験の場面 仲の良い友だちのグループで実験を行う。 プリントにたかりの様子を記入する。</p> <p>5 まどめの場面 まどめを書かぬい。</p> <p>6 降り返りの場面 降り返りを書かぬい。</p> <p>空気の動きを観察しよう...</p> <p>友だちとよくわかりぶんたんをして実験する姿がよかったです。はじめとおもしろい理科の授業もやりました。お月見する=ゴゴゴとね。</p> 

4月、授業に参加しないA児であったが、自己選択しやすいようにネームプレートを活用したり、観察記録をしやすいようにプリントを用意したりしながら意図的に対話による働きかけをすると、少しずつ学習活動に参加する姿が見られた。その活動を言葉やノート指導で認めて褒めることにより、A児の主体的な学習活動が多くなってきた。

表2 6年理科 電気と私たちの生活 (2016年 2月)

学習活動	キャリア発達にかかわる働きかけ	A児の行動
<p>1 導入の場面 電熱線に電流をたくさん流すと発熱の量は、どうなりますか?</p> <p>2 課題の場面 電熱線を太くすると、発熱量はどうか?</p> <p>3 予想の場面 「大きくなる」「小さくなる」「変わらない」</p> <p>4 実験の場面 みづろう糸土を使った実験を行う。</p> <p>5 まどめの場面 電熱線を太くすると、発熱量は大きくなる。</p> <p>6 降り返りの場面 わかったことやふしぎなことを書く。</p> <p>7 ノート指導 教師が一人一人にノート指導を行う。</p>	<p>挨拶: 授業開始の挨拶がちゃんと知ってますね。</p> <p>2 課題の場面 実行: ノートにしっかりと課題を書きましょう。</p> <p>3 予想の場面 選択: 自分の予想にネームプレートを書きましょう。</p> <p>4 実験の場面 社交: 自分の予想を友だちに伝えましょう。自分と違う友だちの予想があったらノートに書きましょう。わからない人は、友だちの考えを参考にしましょう。</p> <p>5 まどめの場面 対応: どのようにすれば活動められるかな。 管理: 班で役割決めて、最後まで責任をもってやりましょう。</p> <p>6 降り返りの場面 挨拶: A児さん、友だちと話し合っていて、とてもいいね。 実行: A児さん、最後まできちんと実験結果を書いていてわかりやすい。</p> <p>7 ノート指導 自分の考えをしっかりと書いて、友だちに説明している姿もとてもいい。友だちと話し合っながら最後まで実験できたね。</p>	<p>1 導入の場面 「増える」と発言する。</p> <p>2 課題の場面 課題をしっかりと書く。</p> <p>3 予想の場面 「大きくなる」にネームプレートを書く。ノートに電熱線が太くさん流れると大きくなるからと書く。となりの友だちにノートを見せて説明した。</p> <p>4 実験の場面 「太い方が早く切れるよ」と友だちに話しながら、班のグループで実験を行う。結果を班にまとめる。</p> <p>5 まどめの場面 まどめをしっかりと書く。</p> <p>6 降り返りの場面 太い電熱線は、みづろうがすぐ早く切れてびっくりした。今度は、長さを変えたい。</p> 

2月、授業後、A児に「4月と比べて変わったね。」と伝えた。すると、「先生も変わったね。」と言われた。それまで、教師は、児童の行動について注意するだけだった。「①課題に対する手立て→②意図的な対話による働きかけ→③認めて褒める→④今後のアドバイス」の流れで教師が児童に対応することにより、児童の課題が改善された。

(2) 実践1 分析内容1: 例2 個別のキャリア・カウンセリング

① 活動の流れ

図1のキャリア教育の評価指標における重点の能力概念を、具体的な児童の姿で示したアンケートを行った。アンケートの自己評価を基にして教師によるサポート評価を行い、資料1のキャリア発達度表で表した。アンケートをとった4月、7月、12月、3月のうち、7月と12月は、資料1のキャリア発達度表を使用しながら、資料2のように担任や筆者と児童の一对一で個別のキャリア・カウンセリングを行った。



資料2 個別のキャリア・カウンセリングの様子

② 抽出児童A児の変容

【2015年 7月】

A児の2015年 4月のキャリア発達にかかわる諸能力(自立度24 評価B)
肯定1 選択3 管理2 挨拶4 社交3 協働1 実行2 対応2 遂行1 役割1 設計2 適正2
A児の2015年 7月のキャリア発達にかかわる諸能力(自立度25 評価B)
肯定1 選択3 管理2 挨拶4 社交3 協働1 実行2 対応2 遂行1 役割2 設計2 適正

個別のキャリア・カウンセリングでは、「①良い点を賞賛→②課題を明らかにして理由を受容→③課題に対する方向付け→④励まし」の流れで行った。図5のように、7月の個別のキャリア・カウンセリングでは、周りから認められることが少ないため、自己肯定感が低く「自分はいいところがない」「できない」という発言が多かった。そこで、A児にも「挨拶がとてもいい」という良い点があること、「友だちと協力して最後までがんばる姿」を見せることで周りから認められること、そして、先生は、A児さんを助けていくと約束をした。

【2015年 12月】

A児の2015年12月のキャリア発達にかかわる諸能力(自立度34 評価B)
肯定3 選択3 管理3 挨拶4 社交3 協働3 実行3 対応3 遂行3 役割2 設計2 適正2
A児の2016年 3月のキャリア発達にかかわる諸能力(自立度37 評価A)
肯定3 選択3 管理3 挨拶4 社交3 協働3 実行3 対応3 遂行3 役割3 設計3 適正3

図6のように、12月のキャリア・カウンセリングでは、4月とは違い、褒められることが多くなったことで、否定的な言葉が見られなかった。設計の意識が高まり、中学校の事を考える様子が見られた。その後、12月～2月に総合的な学習でキャリア教育を行った結果、様々な職業の方からのアドバイスもあり、不安が少し取り除かれた。3月の役割・設計・適正の評価が2から3に上がった。

(3) 実践1・2 分析内容2: 全校(小規模校・大規模校)の実践を通じたキャリア教育の評価指標による数値の変容

表3と表4は、4月、7月、12月、3月の自立度を比較したものである。小規模校、大規模校に関わらず、どの学年も向上していることが明らかになった。キャリア発達にかかわる児童の気持ちや行動は、活動後には高まるものの、時間が経つと元に戻ってしまうことが多かったが、キャリア・カウンセリングにより、成果と課題の意識を持続させ、次の活動へとつなげることができた。そのスパイラルを繰り返しながら、キャリア発達にかかわる諸能力は少しずつ高まった。

学年が上がるにつれて、自立度も上がると予想したが学年差はあまり見られなかった。しかし、重点を比較すると学年差が見えてくる。例えば、挨拶に関しては、低中学年では高く高学年は低くなる。役割・設計・適正は、高学年になると急に高まる。その学年の課題を理解し、集団に向けてのキャリア・カウンセリングも必要となる。

個人差はとても大きい。個別のキャリア・カウンセリングを通して、成果と課題を明らかにし、児童をサポートしていくことが重要である。

教師:この表を見てください。円に近いところが、がんばっている力で、へこんでいるところがこれからがんばる力です。①4の挨拶、がんばっていますね。②1の肯定はどうして、低いのかな?

A児:みんなから褒められたことないし、俺なんていいところ全然ないから…。

教師:②そうですね…。A児さんはいいところたくさんあるのよね。例えば、大きな声で挨拶できる。A児さんのあいさつは、みんなを気持ち良くする。③A児さんが、友だちと一緒に一生懸命に、最後までがんばる姿を見せれば、みんなもA児さんのいいところに気付くね。どう?

A児:そんなことできないし…。

教師:④A児さんなら大丈夫。先生もA児さんを助けるから。

図5 キャリア・カウンセリングの実際(7月)

教師:A児さん、がんばっていますね。①目標だった「友だちと協力して最後までがんばる力」が付いてきたね。自信ついたかな?

A児:褒められることが多くなったから、気分が良くなったというか…。少し、でも、②中学校が心配…。

教師:そっかあ。③これから、いろいろな職業の方からの話を聞いて、④これからのことを考えていくから大丈夫。

図6 キャリア・カウンセリングの実際(12月)

表3 M小学校(小規模校)の自立度の変化(学年平均)

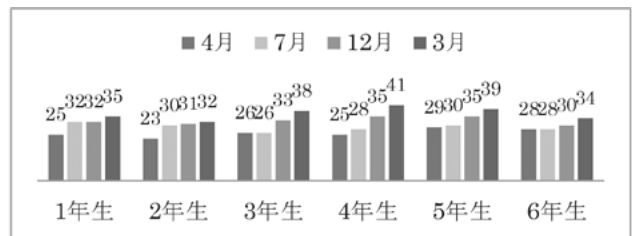
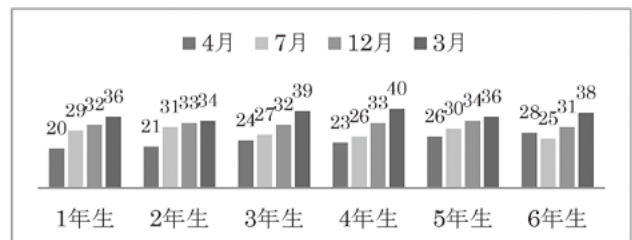


表4 N小学校(大規模校)の自立度の変化(学年平均)



5 成果と課題

(1) 成果

① アウトカム評価を生かしたキャリア発達にかかわる諸能力について

アウトカム評価を活動の改善に生かすだけでは教師の一方的な評価になってしまう。アウトカム評価を児童に直接フィードバックすることで課題意識が生まれ、児童と教師の協働によりキャリア発達にかかわる諸能力が育成された。

② PDCAサイクルを基盤とした全教育活動によるキャリア教育活動について

Plan(計画)で、しっかりと目標を示すことで、児童は目標を意識してDo(実行)する。目標を意識したDo(実行)が、目標をしっかりと振り返ることができるCheck(評価)につながっていて、児童が目標に対して評価をして、次の改善に生かしている。確実なPDCAサイクルの活用が、目標を意識した意味のある主体的な活動につながっている。

また、キャリア発達にかかわる諸能力は、特定の教科や短い期間では高まりにくい。全教育活動を通した様々な活動を通して少しずつ高まっていく。

③ キャリア教育の評価指標とキャリア・カウンセリングの活用について

児童自身が成果と課題を意識して振り返ることができるだけでなく、教師も児童の成果と課題を理解して指導できる。キャリア教育の評価指標により成果と課題を可視化することが、教師と児童による目標の共有につながっている。

また、日々の授業や活動中に、キャリア発達にかかわる言葉を意図的に働きかけることやノートへ賞賛やアドバイスを記入することは、児童の成果や課題意識を持続させるために有効である。個別のキャリア・カウンセリングの場では、自分の力を再確認し、新たな目標の設定の場となり、これからの活動に向かうための土台となっている。

キャリア教育の評価指標だけでは児童の心には届かない。キャリア・カウンセリングだけでは具体的な支援はできない。キャリア教育の評価指標を活用したキャリア・カウンセリングがあってこそ、児童の心に響く具体的な支援をすることができるのである。

(2) 課題

① 具体的な評価基準の設定

児童の具体的な姿を示したアンケートによる自己評価をした結果、自分を低評価したり高評価したりする児童がおり、教師評価との違いが目標の共有を困難にする場面があった。より適切な評価ができるためには、評価基準をしっかりと決めていく必要がある。例えば、「自分にはよいところがある」の評価基準を、「1点：よいところがなく悪いところばかりである、2点：よいところも悪いところもない、3点：1つよいところがある、4点：2つ以上よいところがある」とすると適切に評価できる。また、教師が、評価をした児童の具体的な姿について記録していくことも重要である。

② キャリア・カウンセリングのマニュアル作り

手続きで示した内容を、職員会議で共通理解をしたが、授業の中でどのように働きかけるのか等、教師によって指導の違いが見られた。教師の意思統一した指導のための詳細なマニュアル作りが必要である。

③ 今後のキャリア教育の在り方

2014年のM小学校のキャリア発達にかかわる諸能力は、ほとんど変化が見られなかった。しかし、キャリア・カウンセリングを導入した本実践により、キャリア発達にかかわる諸能力は高まった。児童にかかわる全てのことを効率的に課題達成へ方向付ける点がキャリア教育の重要な役割である。私はキャリア教育の充実こそ「生きる力」につながると確信している。児童が大人になった時に、社会的にも職業的にも自立できる姿を目指して今後も実践を続けていきたい。

引用・参考文献

- 1) 内閣府『平成26年版子ども・若者白書(全体版)』
- 2) 田原早苗『よりよい生き方を目指す子どもを育てるキャリア教育－キャリア教育の視点から見つめ直す総合的な学習の時間－』、教育実践研究第17集、上越教育大学学校教育実践研究センター、2007年
- 3) 川崎友嗣『キャリア教育の効果と意義に関する研究－中学校における効果測定を試み－』、関西大学人間活動理論研究センター、2008年
- 4) 文部科学省 国立教育政策研究所 生徒指導研究センター『データが示すキャリア教育が促す「学習意欲」』、2014年、3月
- 5) 福永由希子『中学校におけるキャリア・カウンセリングの在り方－スクールカウンセラーとの連携を生かして－』、やまぐち総合教育支援センター、長期研修教員調査研究、2005年
- 6) 新潟県立教育センター『新潟っ子プラン 能力概念シート』